

以上一萬五千元以下のものが過半数をしめ、八千円以下のものが比較的少ないのに対して、保育科専攻の場合は、一万円以上のものが僅か一〇％で、八千円以下のものが約三分の一近くいることになっている。すでに、各方面でいろいろな対策が考えられているが、今日の各種産業の好況下で、今後一層の改善が望まれる。

最後に、卒業生の結婚状況であるが、回答者中約三〇％が既婚で卒業後何年目に結婚したかと問えば、三年目中が最も高く、五年目、四年目がこれについている。この傾向は、他学科専攻者と格別の相違を認めない。むしろ、既婚者中約半数が夫に教員をえらび、また、結婚後も保育者の仕事をつづけているものも約半数いることなどは、他学科にはみられない特色といえる。幼児教育における職員構成から考えても、既婚者中なお職場において専門性を高度にするこの可能性を幾分か推測できるが、関係者の理解が一層望まれよう。

以上のことから、保育科短大卒業生は他学科卒業生と比較して、主体的には自己の専攻学科に一種の自負をもち、結婚後もなお専攻学科の生きる保育者の道を歩もうとする気魄をもっているといつてよい。しかし、客観的には、給与体系の問題性、勤務施設での意見阻礙の処理方法などが原因となつて、その継続勤務を阻んでいる点を認めねばならない。今後、こうした領域の困難点を一層明らかにし、保育者の定着性と専門職化に一層寄与したい。(大会抄録157—159頁)

## 保育者のモラール調査 (その一)

大阪樟蔭女子大学 西本 脩

**問題** 幼稚園や保育所で働いている保育者が、毎日愉快にその職務を果たして、幼児の幸福をもたらすためには、単に物的環境条件や労働条件を改善するばかりでなく、保育者のモラールを高める方策を検討する必要がある。

そのためには、まず、保育者のモラールの現状を科学的につかまなければならぬが、その一助として一調査を試みた。

**調査の方法** 保育者のモラールを測定し、評価する方法には、いろいろ考えられるが、今回は、つぎのような五項目の質問からなる質問紙法によつた。これらの質問は、いずれも保育者の職務との一体感を異なつた角度から尋ねているものである。

調査に協力し、回答を寄せられた方は、市および市の公私立保育所保育、計一九九名であり、調査の時期は、本年一月—四月である。

### 〈保育者意見調査〉

つぎの質問のそれぞれについてその次に書いてあるいくつかの答の中から、あなたの気持ちに一番あてはまるものをつらえらんで、( )の中に○をつけて下さい。もし完全にあつてもよいが、一番あなたの気持ちに近いものに○をつけて下さい。

- 一、あなたは、現在の仕事を選んだことに対してどう思っていますか。
  - イ ( ) 非常に満足している ( ) 先見の明があつた
  - ロ ( ) 思ったよりよかつた ( ) これからよくなるだろう
  - ハ ( ) 考えたことがない ( ) どちらともいえない
  - ニ ( ) 欲をいえばきりがない ( ) 思ったよりよくなかつた
  - ホ ( ) 今さらしかたがない
  - ヘ ( ) 非常に後悔している
- 二、あなたは、お子さんのうちの誰かに今のあなたの仕事をやらせたいと思ひますか。(現在子どものいない人は生れたとして)
  - イ ( ) ぜひともあとをつがせたいと思ふ
  - ロ ( ) やらせてもよいような気がする
  - ハ ( ) 子どもの自由だ ( ) どちらでもよい ( ) (今はわからない)
  - ニ ( ) 気がすまない ( ) なるべくやらせたくない
  - ホ ( ) こんでもない ( ) 絶対にやらせない

三、あなたは、今の仕事について、将来の希望をおもちですか。

イ ( ) 前途が非常に明るい

ロ ( ) なんとか希望がもてそうだが

ハ ( ) なんともいえない

ニ ( ) なんとか前途が暗い

ホ ( ) 全然希望がもてない

四、あなたは、今の仕事をこれから先もつづけていきたいと思いませんか。

イ ( ) ぜひとも続けたい

ロ ( ) 続けてもよいような気がする

ハ ( ) どちらでもない ( ) 考えたことがない ( ) わからない

ニ ( ) いずれは他の職に変わりたい ( ) できれば他の職に変わりたい

ホ ( ) どこでもよいから少しでも早く変りたい

五、あなたは、現在のあなたの仕事に、誇りを感じていますか。

イ ( ) 非常に誇りを感じている ( ) 名譽この上もない

ロ ( ) 少し誇らしい気持ちがある

ハ ( ) どちらともいえない

ニ ( ) なんとか恥ずかしい

ホ ( ) 非常に肩身がせまい

### 調査の結果および考察

一、保育所保母のモラルの高さの全体的傾向について

前記調査票の各質問について、イ、ロ、ハ、ニ、ホの各選択肢に、便宜上それぞれ+2、+1、±0、-1、-2の得点を与え、各人の回答を一応の得点に換算した。そして、回答者全員の得点分布を見ると、公立保育所保母(以下、公保保母と略す)の平均得点三・二四、標準偏差二・四八となり、私立保育所保母(以下、私保保母と略す)の平均得点は、四・一二、標準偏差二・三二となり、t検定によってこの両者の平均得点の差を検定したところ、危険率〇・一%以下で、私保保母の方が得点が高い、有意な差を認めた。

また、それぞれの選択肢のうちで、Favorableなもの二つ、すなわち(イ)および(ロ)を選んだもののみをとりあげて、選択の度数率の差を

各問ごとに $\chi^2$ 検定で検定した。第一問については、一%以下の危険率で、私保保母の方が満足しているものが多いという有意差を認めた。第二問については、私保保母の方に、子どもにやらせたいものが多かった(二%の有意水準)。また、第三問では、やはり私保保母の方に、将来の希望をもっているものが多かった(二%の有意水準)。第四問および第五問については、有意差は認められなかった。

なお、公保保母を全般的にみると、第三問で将来の希望をもっているものが、(イ)回合せて八三・九%と高く、第一問で満足しているものが六三・九%、第五問で仕事に誇りを感じているものが五八・八%、第三問で将来の希望をもっているものが五八・三%といずれも高く、保母のモラルが一般に高いことを示している。ただ第二問については、積極的に子どもを将来保母にしたいというものは、(イ)回合せても八・〇%しかなく、非常に低かったが、これは、大半のものが(イ)の「子どもの自由だ」という答を選んだからである。このことは、子どもの職業の選択については自由にさせるといふ民主的な考えをもった保母が多いことを示し、必ずしもモラルが低いということではない。

二、年令別によるモラルの高さの比較

第四問で、年令が上になるにつれて、今の仕事をこれから先も続けていきたいものが多くなる傾向が見られたが、他の質問については、年令との関係は見られなかった。

三、未婚者既婚者とのモラルの高さの比較

第三問において、未婚者の方に将来の希望をもっているものがやや多いことが見られたが、その他の質問については、差が見られなかった。

四、経験年数別によるモラルの高さの比較

第三問において、将来の希望をもつものが、経験年数の少ないものと十五年以上のものに多く、経験年数五年から十五年の間で少なくなるのが認められた。

五、主任保母と保母とのモラルの高さの比較

第一問、第四問、第五問において有意差が見られた。すなわち、主任保母の方が保母よりも、満足しているものが多く(第一問、今の仕事をこれから先も続けていきたいものが多く(第四問)、仕事に誇りを感じているものが多い(第五問)ようである。

### 今後の問題

一、今回の調査は、経済的・時間的・その他の制約により、きわめて限られた小調査に終ったが、今後は農漁村の幼稚園教諭、保育所保母を含めた調査をすすめていきたい。

二、今後、面接法やその他の方法も併用しつつ、保育者のモラルを阻害している要因が何であるかをさらに究明し、それらの原因を除去し、あるいは軽減する施策に役だてたい。

(紙数の関係上、「表」をすべてはぶいた)(大会抄録159—163頁)

## 幼稚園教師に関する研究

(教師の態度とその分析)

お茶の水女子大学 磯部景子  
星野三和子

### 研究目的

昨年は幼稚園教師の保育態度を調査するために作成した二種の尺度について報告した。すなわち第一は教師が保育の実際

場面でのどのような態度をとるかを見るために、数人の教師の一日中の行動を観察記録し、それをもとにして保育態度調査用紙を作成し、リッカート法によって項目分析を行なって尺度化したものである。他の一種はMTAIである。これはミネソタ教師適性評定尺度を翻案し、リッカート法によって項目分析をしておいたものである。保育態度調査用紙では教師の態度は統合的と支配的の二つの軸に分れる。統合的とは教師の意図と子どもの意図との両者が生かされるように指導する態度であり、支配的とは教師の意図のみが支配するような態度である。MTAIにおいては教師の態度を民主的な態度と権威的な態度との二つに分けて考えている。いずれも得点の高い方がより統合的または民主的であり、得点の低い方がより支配的または権威的である。本年度はこの二つの尺度を現職の幼稚園教師に適用し、その得点に影響を与える要因について考察しようとした。

**被験者と研究方法** まえに述べた二つの調査用紙を幼稚園教諭の二つの夏期講習会で実施した。なおその際に、A年令、B経験年数、C教育年数、D園内における身分、E家庭における身分をたずねる項目を設けておいた。被験者数は保育態度調査用紙は合計三百九十名、MTAIは合計四百名で、いずれも無記名記入である。各条件について平均値と標準偏差を求め分散分析を行なって有意差検定をした。

**結果** まずMTAIについて。

A年令 分散分析の結果は有意ではなかった。しかし傾向としては、二十歳から二十九歳のものが民主的であり年令が増すにしたがい権威的になる傾向がある。すなわち、教育に関する知識は年令が若いほど進歩的であり年令が増すにつれて保守的になる。ただし、二十歳以下のものはとくに得点が低くなっている。これは二十歳以